

(様式 2)

管外調査、研修結果報告書

舞鶴市議会議長
上野 修身 様

2017年 2月13日
会派代表者氏名 小杉 悦子

このたび、調査、研修、をしましたので、下記のとおり報告します。

記

- 1 参加氏名 後野 和史、伊田 悦子、石束 悦子、小杉 悦子
- 2 調査・研修地
兵庫県篠山市 市役所議会棟にて
- 3 期 間 平成29年 1月18日 ～ 月 日
- 4 経 費 西舞鶴から篠山市往復高速代金 1310円×2＝2620円
- 5 結果の概要

① 面会者・研修講師名

篠山市議会 渡辺 拓道議長
篠山市 市民生活部 野々村部長、
市民生活部市民安全課 西牧課長 他

② 調査、研修内容

ア 視察・調査項目 視察調査内容「安定ヨウ素剤の事前配布について」

A 安定ヨウ素剤の事前配布にいたる経過について

○2012年3月、高浜原発での事故の想定で、京都府発表のSPEEDIを活用した放射性物質拡散シミュレーションにおいて、篠山市では、50から500ミリシーベルトに達することがわかった。このことから市長が「研究が必要である。」とした。

○2012年12月に「篠山市原子力災害対策検討委員会」を設立。兵庫県、自治会長、民生児童委員協議会、消防団、医師会、学識経験を有するもの、篠山市など13名で構

成され、後で3名追加され16名となっている。「東日本大震災における原子力災害の最新の知見に基づき、本市における原子力災害対策について協議し、計画等の指針について審議及び検討を行う」ことを目的とされている。

○篠山市原子力災害対策検討委員会は、2016年10月までに18回開かれた。地域防災計画原子力災害対策編の策定を目指されたが、30キロ圏外における国の対策が明確にされなかったため、「提言書」をまとめ、2015年6月に市長に提出された。(参考資料)

○兵庫県放射性物質拡散シミュレーションを2014年4月に公表。高浜発電で最大被ばく線量100.1ミリシーベルト、大飯発電所で、80.7ミリシーベルトとなった。

○提言書では、「(提言4)市は被曝防護のための安定ヨウ素剤の配布を速やかに行ってください。知識普及のための学習会を含む、配布計画の詳細を策定し、市民に公表してください。」「(提言5)市民のみなさんは、日ごろから原子力災害に限らず、災害のあり方を学び、いざというときに『正常性バイアス』にかかることなく、迅速な避難ができるように、シミュレーションを繰り返してください。市が災害対策の精一杯の努力を行うことを前提としつつ、市民一人ひとりの日ごろの備えが災害に強い町を作ることをご理解いただき、原子力災害を含んだ災害対策全般に対する備えを強化してください。」となっており、このことから、事前配布に取り組んできた。

B 配布状況について

○安定ヨウ素剤事前配布に向けての取り組み

「原子力防災学習会の開催」・・・住民学習(年2回)の制度を活用して1回自治会で開催してもらった。そのために職員も全員が研修し講師になれるようにした。261自治会中201自治会で開催、約4300人が参加(住民の1割)。小・中すべてのPTA会議で出前講座の開催(23回約650人が聴講)

○安定ヨウ素剤事前配布の実施

事前配布の実施開催を、広報紙で掲載、リーフレット・問診票の配布。自治会、小・中学校、幼稚園、保育園でのリーフレット配布、3歳以上18歳以下の子供がいる世帯へのダイレクトメール発送(3320通)。このとき市長のメッセージも添えた。・・・安定ヨウ素剤の必要性の周知に努力。

医師・薬剤師にも研修を受けていただき、一日2回(土日だけではなく平日にも設定)1回にあたり、医師2名、薬剤師2～3名で行った。

○27年度配布実績は、6会場で2回行った。希望者数11,517人で、そのうち受領された方は11,508人。配布不適者は9人。受領割合は3歳以上の市民の27%だった。成長期にある子どもの受領状況は(3歳から13歳未満)67%だった。28年度は6会場で1回。2年合わせて受領状況は全体で29.4%、3歳以上13歳未満

で73.6%となった。

C 国、県との連携等について

○実施していくにあたっては、国や県、事前配布をされている自治体の担当者に聞きながら計画を作っていた。研修会などは県の担当者や県立病院の支援も受けたし、検討委員会に県も入ってもらった。

D 財源について

27年度決算額 5,347千円

28年度予算額 2,739千円

報償費（医師・薬剤師）消耗品費（薬品費・配布ケース、資料等）役務費（郵送料）

E 平常時の事故等の対応について

事前配布した行政としての責任は基本的にある。事前配布した後のアンケートの実施もしている。

③所見

50km離れた篠山市で、どうして安定ヨウ素剤を事前に配布することができたのか、視察に行き、説明を聞き、霧が晴れていくようによく分かった。また提言は具体的でイメージできるようにできていた。すごいなと思ったことは

1、福島から避難された方が市長さんに相談される中で、検討委員の一人に守田敏也さん（フリージャーナリスト）を推薦され、医療の専門家の人達と説明会や学習会を何度もされたこと。

2、市役所の職員、消防士など、市民にきちんと説明すべき人への学習を重ね、また、説明会も昼、夜、土日、平日とされ、市民への周知にとことん努力されていること。

3その上での配布なので、副作用の心配はあまりないとのこと、しかし何かあれば市で責任を持つと言われていたこと。不安なことは何度も話し合うという市政であることが伺えられたこと。

石東 悦子

篠山市における安定ヨウ素剤の配布は、平成25年4月の兵庫県が、高浜・大飯原発事故の放射性物質拡散シミュレーションの発表を受け、市長が研究するよう指示、検討委員会が立ち上げられ、希望する市民に安定ヨウ素剤を配布するなどの提言書がまとめられ、実施に移された。市民の安全を守る立場に立つことを、避難計画策定の義務がないにせよ、行政が主導して安定ヨウ素剤の配布という形で示したことは、地方自治体本来のあり方といえる。

後野 和史

何よりも市民の安全優先に決断されたことに舞鶴市との大きな違いを感じた。事前配布までの経緯について、原子力災害対策検討委員会を設立し、委員会での提言もうけ市長が事前配布を決断。それにもとづき、職員の学習。自治会毎に、すべての職員が出向き、学習を活かし、丁寧な市民への説明。消防団や全ての小・中学校PTA会議への出前講座。これらの取組を通じて、市民

の不安に寄り添い、その解消のために出来ることはすべてやる。こういった姿勢は学ぶべきと強く感じた。

伊田 悦子

篠山市の取り組みは、放射線から市民を守る立場で、国の義務付けのない50キロ圏での安定ヨウ素剤の配布ということで、全国的にも注目されています。私が一番感心したところは、事前配布実施にあたって、全市職員への研修をすすめ、どの職員も説明できる力をつける努力、市民への説明会を丁寧にされていることなど、その努力が大切だと思いました。

市長の決断が大きいとは思いますが、実施した中でやはり、子どもへの配布率と、その保護者世代の受領が多いのは、せめて甲状腺を放射性ヨウ素から守りたいという保護者の願いの表れだと思いました。議会も付帯決議が付けられましたが、補正予算を賛成多数で可決していることに敬意を表したいと思います。3年が一区切りですので、その後の推移をみていきたいと思いましたが、舞鶴市でもこの取り組みの重要性を再確認して今後の活動に活かしたいと思いました。

小杉 悦子